

令和4年度第一種動物取扱業（種別「販売」）における動物由来感染症調査結果報告

1 はじめに

第一種動物取扱業者に自主管理導入の動機付けを行い、動物由来感染症の発生予防、まん延防止を推進することで、都民の飼養する動物に由来する感染症発生の未然防止を図る一助とするため、都民に販売される動物の病原体保有実態調査を実施した。

2 調査対象

都内で飼養施設を有して「販売」の登録を受けている第一種動物取扱業者1,618施設中（令和4年3月31日現在）8施設を対象とし、そこで販売されている犬46頭（糞便46検体、被毛38検体）、猫32頭（糞便30検体、被毛29検体）の計78頭（糞便76検体、被毛67検体）について病原体保有実態調査を行った。

3 調査実施期間

令和4年7月から令和4年10月まで

4 検査項目及び検査方法

(1) 飼養実態調査

動物の飼養状況等について聞き取り等を行った。

(2) 病原体保有状況調査

検査項目及び検査方法は、表1のとおりである。

表1 検査項目及び検査方法

検体	検査項目	検査方法
糞便	サルモネラ属菌	分離培養法
	病原大腸菌 毒素原性大腸菌 (ETEC) 病原血清型大腸菌 (EPEC) 腸管出血性大腸菌 (EHEC)	遺伝子検査法及び分離培養法の併用
	回虫	集卵法
	糞線虫	遠心沈殿法、普通寒天平板培養法、遺伝子検査法
	トキソプラズマ	集オーシスト法
	ジアルジア	集シスト法、遺伝子検査法
	被毛	皮膚糸状菌

5 実施機関

(1) 検体搬入、飼養実態調査、業者への助言指導等：動物愛護相談センター

(2) 検査実施機関：健康安全研究センター微生物部病原細菌研究科寄生虫研究室、結核・性感染症研究室及び食品微生物研究科真菌研究室

6 結果

(1) 飼養実態調査

調査した8施設（A～H）の飼養管理状況は表2のとおりであった。

表2 施設別飼養管理状況調査結果

調査項目		施設								
		A	B	C	D	E	F	G	H	
動物	管理動物数	犬	6	25	6	42	11	30	26	17
		猫	6	16	6	12	4	12	8	5
		その他	-	-	74※1	-	-	46※2	-	-
	体調異常	-	-	-	-	-	○※3	○※4	-	
	かかりつけ獣医師	○	○	○	○	○	○	○	○	
	定期健診	○	○	○	○	×	○	×	○	
	定期的なシャンプー	○	○	○	○	○	○	○	○	
	管理方法	個別	群	個別	個別	個別	個別/群	個別	個別	
	導入元	特定ブリーダー	自家繁殖/ 市場	市場 /特定ブリーダー	特定ブリーダー	市場	市場	市場	市場	
販売	販売時重要事項説明	○	○	○	○	○	○	○	○	
	販売時記録台帳管理	○	○	○	○	○	○	○	○	
施設	飼養施設の点検記録	○	○	○	○	○	○	○	○	
	動物の点検記録	○	○	○	○	○	○	○	○	
人	従業員数	3	6	7	5	4	7	4	4	
	従業員の体調不良	無	無	無	無	無	無	無	無	

※1 ウサギ、げっ歯類、羊、インコ類、猛禽類、カメ類、ヘビ類、トカゲ類

※2 ウサギ、げっ歯類、インコ類、トカゲ類他

※3 風邪症状（犬、猫）いずれも検査時点で治療中

※4 咳症状（犬5、猫3）いずれも検査時点で投薬治療中

(2) 病原体保有状況調査

ア 糞便検査結果

表3のとおりであった。

表3 糞便検査結果

対象動物	検体数	陽性検体数 (陽性率)							
		サルモネラ属菌	病原大腸菌			回虫	糞線虫	ジアルジア	トキソプラズマ
			毒素原性大腸菌 (ETEC)	病原血清型大腸菌 (EPEC)	腸管出血性大腸菌 (EHEC)				
犬	46	1 (2.2%)	8 (17.4%)	3 (6.5%)	0	0	0	12 (26.1%)	
猫	30	0	1 (3.3%)	0	0	0	0	2 (6.7%)	0

イ 被毛検査結果

表4のとおりであった。

表4 被毛検査結果

対象動物	検体数	皮膚糸状菌陽性検体数 (陽性率)
犬	38 ※1	3 (7.9%)
猫	29	5 (17.2%)

※1 検体量不足による検査不適1検体を含む。

ウ 施設別検査結果

犬の施設別検査結果は表5、猫の施設別検査結果は表6のとおりであった。

表5 犬の施設別検査結果

施設	陽性項目	陽性検体数	検体数
A	毒素原性大腸菌 (E T E C)	3	糞便4、被毛4
	ジアルジア Assemblage D	2	
B	ジアルジア Assemblage D	2	糞便5、被毛5
C	ジアルジア Assemblage C	2	糞便7、被毛7
D	サルモネラ	1	糞便7、被毛7
	毒素原性大腸菌 (E T E C)	3	
	皮膚糸状菌 (<i>Microsporum</i> 属菌)	1	
E	毒素原性大腸菌 (E T E C)	2	糞便5、被毛5
	ジアルジア Assemblage C	1	
	皮膚糸状菌 (<i>Microsporum</i> 属菌)	2	
F	ジアルジア Assemblage C	1	糞便6、被毛6 ※1
	ジアルジア Assemblage D	1	
G	ジアルジア Assemblage D	1	糞便4、被毛4
H	病原血清型大腸菌 (E P E C)	3	糞便8
	ジアルジア Assemblage D	2	

※1 検体量不足による検査不適1検体を含む。

表6 猫の施設別検査結果

施設	陽性項目	陽性検体数	検体数
A	ジアルジア Assemblage F	1	糞便3、被毛3
B	—	0	糞便5、被毛5
C	ジアルジア Assemblage F	1	糞便6、被毛6
D	毒素原性大腸菌 (E T E C)	1	糞便3、被毛3
	皮膚糸状菌 (<i>Microsporum</i> 属菌)	3	
E	皮膚糸状菌 (<i>Microsporum</i> 属菌)	2	糞便4、被毛5
F	—	0	糞便1、被毛1
G	—	0	糞便6、被毛6
H	—	0	糞便2

※ 施設Cについては、犬猫の検査検体のうち11検体から *Aspergillus flavus* (本調査対象外) が検出され、このうち3検体についてはアフラトキシン産生性が確認された。

(3) 陽性個体への対応状況

陽性個体が確認された各施設において、かかりつけ獣医師による診察、治療等が行われた。なお、施設Cから検出された *Aspergillus flavus* については、汚染環境下で確認される真菌のため、施設の清掃整備を併せて指導した。